

えひめ 地域づくり協働体通信

平成 27 年度地域活動組織構築サポート事業の舞台となった愛南町緑地区において、この事業をきっかけに誕生した「まるごと緑」、その現会長である宮本秀樹さんに、「住みよい緑を次の世代に繋げる組織」と題しまして、取り組みについてレポートしていただきます。

皆さまの地域活動の参考にさせていただければ幸いです。

愛南町緑地区

キーワード：地域内交流、
コミュニティ構築



●「まるごと緑」とは？

全国的に人口減少が問題視されている中、緑地域においても他人事ではない問題であります。『まるごと緑』は地域内の問題を洗い出しその問題を先送りすることなく受け止めこれからの地域の在り方、理想ををみんなで話し合うために、緑地域地区長会を中心に地域内で活動する 14 団体の会長等 27 人で構成されて、現在の組織を再構築し協働、共助、互助によるコミュニティの構築を目指します。

●地域住民の思いを知るために

(1) まずは学びから！

「不安・心配事・地域課題等評価社会調査手法開発・設計事業（まるごと緑計画ブラッシュアップ事業）」を愛媛県及び愛南町の支援を受けて当該計画中の個別事業を地域社会に実装可能なものとするために、愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科准教授羽鳥剛史研究室（准教授及び学生 3 名）の協力を得て、地域住民の不安・心配事・地域課題等の社会調査手法を開発・設計しました。

まずは、羽鳥准教授に「地域づくりへのトランスディシプリナリー・アプローチ」と題して地域づくり講演会をしていただきました。まるごと緑の構成員 24 名が参加したこの講演会では地域づくりの考え方と同時に事業の概要の説明もしていただきました。

(2) いよいよ調査開始！

その後、運営会メンバーで 2 回の事業打ち合わせとアンケート調査を経て、人口統計に基づき年齢性別を統制した 10 代～70 代の緑地域住民 60 名を対象に約一週間をかけて聞き取り調査を行いました。この調査は緑地域の住民が地域で暮らすうえでどのような不安や心配事を抱えているかを把握することが目的です。アンケートと聞き取り調査の結果、地域住民の幸福感向上を目指すうえで行政サービスに対する不安を払拭し、地域住民が日常生活や他者との関係性に対して不安を感じないように努めることが肝要であると考えられました。

この事業成果を基に来年度は地域住民と行政が話し合い合意形成する『新しい公共』のモデルの創造と実践を行っていきます。



羽鳥先生の講演を真剣に聴く地域の皆さん

●その他の事業

- ① 地域おこし協力隊員・集落支援員から学ぶ地域の受け入れ
内子町小田の地域おこし協力隊員の納堂邦弘氏と東温市集落支援員の森裕之氏を講師に迎えて、講話と二班に分かれて座談会を行いました。
- ② 交流イベント
平成 29 年 2 月には、森裕之氏の力添えで東温市井内区の『人・空・棚田を生かす会』と交流会を行いました。井内区のイベント（海・山コラボダイニング）に愛南産の魚介類と柑橘を持ち込み参加しました。
また地域内でのイベントとして、緑青年団を中心に地域外の方たちと緑産の食材を利用して緑体験イベントを行いました。
交流拠点の整備として地域内外の人たちの交流の場として緑ふれあい広場を整備しています。

この情報誌の関係サイト/「えひめ地域づくり協働体」 Facebook

●地域の活動情報の連絡先/この情報誌に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL: 089-912-2236 E-mail : chiikiseisak@pref.ehime.jp

(公財) えひめ地域政策研究センター

TEL: 089-926-2200 E-mail : info@ecpr.or.jp